

脆弱性骨折(急速破壊型変形性股関節症など)

骨粗鬆症を基盤にして日常生活動作で骨折を起こします。初期の段階で MRI による診断を行い 2~3 ヶ月間の松葉杖や杖による免荷（体重負荷を軽減する）と骨粗鬆薬（ビスフォスフォネート剤・エストロゲン製剤・副甲状腺ホルモン・ビタミン D など）の投与で骨頭陥没を防止することが重要です。MRI での早期診断なしに放置しておくと骨頭が陥没して荷重時痛が強くなり人工関節置換術をせねばならなくなります。

★初期の段階では、レントゲンでは診断はつきません。MRI でなければ診断できません。

